

# CCIR WP8A/WP8D 東京会合報告

CCIR WP8A, 8Dは、それぞれ陸上移動通信、移動衛星通信に関する研究を行うことを目的とした国際標準化機関であり、当社に最も関係の深い標準化機関の1つです。今回、上記会合が東京で行われ、当社からも積極的な寄与を行ったので、その概要を報告します。

保田 佳之

望月 高治

## CCIRの組織と WP8A,8Dの 標準化活動

CCIRは、国連専門機関の1つであるITUの傘下であり、相互通信性、相互干渉の回避および無線周波数の有効利用といった観点から、電波の利用技術に関する研究を行うことを目的とした国際標準化機関です。CCIRでは、研究分野ごとにSG(Study Group)を設置し、さらに各SGでは割当分野の特定課題ごとにWP(Working Party)を設置して通常年1~2回程度の審議を行い、審議結果を2年ごとのSG会合で勧告として承認するという手順で研究を行っています。移動通信は、CCIRでも近年最も注目を集めている分野であり、SG-8において表1のようなWP体制で審議が進められています。本年1月13日~22日の期間、WP8A(陸上移動通信関連)およびWP8D(移動衛星通信関連)の会合が東京(郵政省飯倉分館)で行われ、当社からも、審議メンバおよび事務局のそれぞれに参加し積極的な寄与を行いました。以下に主な審議結果を報告します。

表1 SG8の検討体制

WP名	担当課題
WP8A	陸上移動業務、アマチュア業務
WP8B	海上移動業務、航空移動業務
WP8C	無線測位業務
WP8D	移動衛星業務
TG8/1	FPLMTS
TG8/2	ウインドプロファイラレーダ

## WP8A関係 審議模様

17カ国より60名の参加があり、21件の入力文書について12の作業班を設置して審議が行われました。一部の勧告案は審議を終了したものの、大部分の勧告案は次回のWP8Aでさらに審議することになりました。主な作業班の審議模様は以下のとおりです。

### (1) デジタルセル方式関連

日本寄書などを踏まえ、日本、欧州、北米デジタルセル方式の記述をアップデートし、次会合の作業文書としました。

### (2) コードレス電話関連

日本寄書に基づく日本のPHP(Personal Handy Phone)に関する記述のアップデートを承認し、カナダのデジタルコードレス電話の勧告提案を付属書のシステム例として記述しました。勧告案はパーソナル無線の勧告案とともにSG-8会合で承認を求めることとしました。

### (3) システム統合関連

日本からの寄書に基づき、日本のシステム統合例(Report 1157; 自動車電話、船舶電話、航空機電話の統合例)を付属書とする勧告案を作成し、次会合の作業文書としました。

### (4) 放射ケーブル関連

日本提案に基づき、放射ケーブルを用いたシステムに関するReport 902を勧告案として再構成し、次会合の作業文書としました。

### (5) 機器特性関連

既存勧告案を日本寄書に基づいて修正(周波数範囲を1GHzから3GHzに、IEC規格準拠の感度の定義など)するとともに、既存Reportの一部を取り込んだ作業文書を作成しました。

### (6) ハンドブック関連

ハンドブックに記載すべきReportを抽出するとともに、目次案を作成しました。また、既存Reportなどの材料のない項目も含めて、次会合でさらに寄書を求めることとしました。

## WP8D関係 審議模様

18カ国より106名の参加があり、100件の入力文書について以下に示す6つの作業班を設置して審議を進めました。5件の新勧告案が作成されましたが、重要課題は次回の会合でさらに継続審議することとなりました。

### (1) 衛星FPLMTS関連

WP8Dでも引き続きFPLMTSの衛星システムの検討を継続することで合意しました。FPLMTSに関して主責任をもって検討しているTG8/1に対し、上記内容も含めた検討結果を送付しました。

### (2) 移動衛星システム内の周波数共用 関連

移動衛星システムにおける静止軌道およびスペクトラムの有効利用についての概念をまとめた新勧告案をSG-8会合に提出することで合意しました。また、周波数の有効利用を可能とするマルチポートアンプなどの具体的な技術を日本より提案し、勧告化に向けた作業文書を作成しました。

### (3) 他業務との周波数共用関連

固定業務を保護するためのPFD制限について、WARC-92で定めた調整のトリガとなるPFD値(Cバンドの固定業務と固定衛星業務の検討結果より導出された値)よりは大幅に緩和できるという内容の作業文書を作成しました。

### (4) 1GHz以下のLEO関連

米国が中心となって作業し欧州からのコメントを基に修正した他業務との周波数共用の評価方法に関する2件の新勧告案を、SG-8会合に提出することで合意しました。

### (5) 航空機公衆通信関連

フランス提案の1.6/1.8GHz帯を用いる航空機公衆通信に関する新勧告案は、米国の反対はあったものの欧州各国の賛同を得て、SG-8会合に提出することで合意しました。

### (6) アンテナ特性関連

オーストラリア提案の移動局アンテナ

の参照放射パターンの勧告化については、日本からのコメントをもとに大幅な修正を行い、次回会合でも継続審議することとしました。

## 今後の予定

現在ITUでは、電気通信環境の急速な変化への効率的对応、およびITU経費の節減を目的とし、組織改革を進めています。1992年12月に開催されたITU追加全権委員会会議で、これまでのCCITT、CCIRといった組織が変わって、標準化セクタ、無線通信セクタ、開発セクタという3つの組織を中心とした新体制で活動することが決定されました。各セクタごとの担当課題の具体的な調整は、1993年6月のアドホックアドバイザリグループ会合で決定される予定です。したがって、SG-8の、CCIRとしての実質的活動は1994年3月の最終会議が最後となり、今後はITUの新体制の下で研究が進められることとなります。



#### CCIR

International Radio Consultative Committee (国際無線通信諮問委員会)

#### CCITT

International Telegraph and Telephone Consultative Committee (国際電信電話諮問委員会)

#### FPLMTS

Future Public Land Mobile Telecommunication Systems (将来の陸上移動通信システム)

#### GSO

Geostationally Satellite Orbit (静止衛星軌道)

#### IEC

International Electrotechnical Commission (国際電気標準会議)

#### LEO

Low Earth Orbit (低軌道)

#### PFD

Power Flux Density (電力束密度)

#### WARC-92

World Administrative Radio Conference 1992 (世界無線通信主官庁会議)